

# 藏王山安善寺

◆編集・発行人◆  
近藤龍弘

〒940-0052  
長岡市神田町1丁目4番10  
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆  
小林国二・小林善秋・高橋潔・室賀清輝  
高橋利春・加瀬由紀子・屋代健  
近藤マリ子・近藤真弘・近藤善信  
後援・株式会社アサヒ印刷・(株)北越時報社



春を待つ安善寺

ご家族の皆さままでご覧ください

## 「鍛錬の人生」

翠巖 弘

『彼岸寺 障子しまり  
て 法話かな』三千春

創刊号の冒頭にも書かせて戴きましたが、

『花開不假栽培力  
自有春風管對伊』

(花が咲くのは、人の栽培の力をからない。春風が吹けば、自然と花を差配することになる)と、毎年この時期になりますと、理屈ぬきで感じさせられます。

普段、雪の積もらない処の木々は少しの雪の重みに折れたり、倒れたりしがちですが、雪国の木々は毎年厳しい風雪に堪えさせられていたためか、少しぐらいの雪では枝も折れることもなく、春には何もなかったかのように生命力豊かに芽生えます。

「そんな様子を観ていると『鍛錬』という言葉が思いうかびます。宮本武蔵

は『五輪の書』において、鍛は千日、練は万日と言っております。千日とは約三年、万日というとおよそ三十年です。「石の上にも三年」という言葉や、中国に初めて禅を伝えた達磨さまも「面壁九年」、ただ只管に坐禅をされたと伝えられております。気候厳しい地域の木々は、否応なしに毎年繰り返しの風雪に堪えて生命力の強さが生まれます。人間社会におきましても自分の計らいどうりにはいかなることが多々あります。そんな中を一日一日を大事に生きる繰り返しが、自身が生き生きすることであり、鍛錬の人生そのものであり、彼岸の生活、仏道生活といえるのではないのでしょうか。

# 【日々精進(二十四)】

## 自他一如の心を常に持つて

近藤真弘

今年は大雪らしいですねえなんて会話が多かったのに反して私には経験したことのないくらい小雪の冬でした。二年ぶりの長岡の冬で、構えていたところもありましたが拍子抜けしたようでもあり、毎年こんなだと有難いなあといつもより楽な冬を過ごさせてもらいました。

小雪といっても冬場は子供たちが外で遊べる日が少なく、家の中の楽しみをと私も子供のころに見ていた「まんが日本昔話」のDVDを購入しました。私も一緒に観ていると懐かしさとともに子供のころに観た話でもその頃とは違う印象を受ける話が多くありました。子供のころはただ無邪気に観ていたものが大人



になると思話と言っても色々深い意味があったり考えさせられるようなはなしがあったりと、ついつい子供と一緒に見入ってしまいました。

そんな昔話のシリーズの中に皆さんもよくご存じの「桃太郎」があります。桃から生まれた桃太

郎が猿、犬、雉を従えて悪い鬼を退治するというお話です。最後は鬼ヶ島に鬼退治に行き見事鬼を退治して「めでたしめでたし」でお話は終わります。

日本人なら誰もが知っている有名な昔話です。典型的な勧善懲悪で弱者が強者を退治するという

のが日本人には受け入れやすかったのでしょう。

こんな桃太郎ですが先日ある記事を目にして少し考えさせられました。

それは2013年「新聞広告クリエーターズコンテスト」という日本新聞協会広告委員会が「しあわせ」をテーマにしたコンテスト最優秀賞の作品です。タイトルは「めでたしめでたし?」ポスターには泣き顔の子供の鬼の絵に子供の字で「ボクのおとうさんは、桃太郎というやつに殺されました。」と書かれていました。

少し過激な言葉ですが作者は「ある人にとって幸せと感ずることでも、別の人からみればそう思えないことがある。違う視点でその対象を捉えるかによって、幸せは変わ



るものだと考えました。」とコメントしています。

これは決して桃太郎が悪いと言っているわけではなく、悪いとされているわけではなく、悪いというだけではなくまさに視点の違いを投げかけた作品です。

物語の中だけではなく日常でも自分にとっては良かったなあとと思うことも他の人はどうだろうとも考えると素直に喜んでばかりいられないということもあります。

冒頭の雪の話もまさに自分を中心に考えるとただただ喜ばしいことです。雪が降るとそれが商

売につながる人にしてみれば小雪というのは喜ばれることどころか生活に つながる深刻な問題になってきます。喜ばしいときに喜んではいけないというのではなく、そうでない人もいる、他の人の気持ちになることは大切なことです。

修証義に「同事というは不違なり、自にも不違なり、他にも不違なり」という言葉があります。常に自分中心ではなく自分に対して他人に対して、自も、これを同じにみる、自他一如の心を常に持つていきたいものです。

# 妻に、そして家族に感謝

平澤 清一

私の妻晴美が他界して今月の私の誕生日に七回忌を迎えます。私の五十一歳の誕生日に妻は亡くなり、誕生日が命日となりました。妻はきつと「私のことを忘れないでいてほしい」という思いなのだと思えます。五十二歳という若さでした。

妻の幼少期はとても健康で、優良児でもありません。中学一年生の時に腎臓病の病にかかり、普通中学校より養護学校に編入学をし、治療と療養をせざるを得なくなりました。そして治療を行いながら勉学に励み、通常三年で卒業のところ六年かけ、無事中学を卒業し高校に進学する事ができました。小学校からの同級生は、既に高校を卒業しておりました。



オーストラリアへの家族旅行

通院を重ね薬を投与しながらの生活でしたが、健康に感謝し学生生活を送り、地元の金融機関に見事に就職を果たすことができました。窓口業務を一生懸命にこなす頑張りやでした。

そんな折、知人との会合で私と妻は出会い、お付き合いを重ねました。結婚を考え告白すると、その当時妻からこう言われました。「私の身体は十代の頃から薬を手放せなくなり、葉漬けの日々を送り病氣と戦っています。私は五十歳までは生きられないし、ましてや子供など生めない身体ですか

ら結婚はできません」と断られました。

その後主治医にお会いし、結論を出す事となったのですが、「薬の投与はだいぶ減ってきています、大丈夫です」と背中を押してもらい結婚に至りました。そして子宝にも恵まれ、二人の娘を授かりました。妻には感謝しております。

長女が学業生活を終え、公務員として保育園に勤務をし、二女が高校二年生の頃、常に定期健診を怠らなかつた妻がガン告知をされたのでした。手術をしましたがすでに全身のリンパに転移し、余命半年との告知でした。本人には隠しておりましたが、その後事実を知ることになりました。妻は半年の余命を跳ね除け、一年九ヶ月の闘病生活を送り他界しました。

その年の長岡大花火では、娘たちが感謝の気持ちを込めてメッセージ花火を上げました。



中村真衣さんと家族の新年会

翌年の五月には長女が私達の二十七回目の結婚記念日に結婚式をあげ、翌年の六月には孫が生まれました。名前を晴空(はるく)といいます。妻の名前から一文字もらい、晴れる、そして雄大な空として名付けてもらいました。二女も今年、大学院を卒業し春からは小学校教諭になる事となりました。すべて亡き妻に感謝しております。そして娘たちには、自分の誕生日は、自分のお祝いではなく、お母さんが我が子を産むために一生懸命に頑張った日ですから、お母さんに感謝をしなくてはいけないと教えています。

# 長岡市花祭りへのお誘い

花祭り実行委員長 木曾 隆

## 『花祭り』

花祭り行事をご存知でしょうか？ 花祭りとはお釈迦様が四月八日ルンビニで誕生されたことをお祝いする行事です。世界中の仏教徒にとつて一番大切な行事と言っても良いと思います。

## 『お釈迦様』

お釈迦様は今から約二千五百年前にインドのカ



ピラ国の王子として誕生されました。(誕生の地は現在のネパールのルンビニ園) 若き日のお釈迦様はゴータマ・シッダルタ太子と呼ばれました。そして何不自由のない豊かな生活をされておられましたが、二十九歳の時、ただ一人お城を捨てて修行に出られました。六年間の厳しい修行の末、三十五歳の時ブッダカヤの菩

提樹の元に座られて瞑想され、お悟りを開かれて仏陀となられました。それから八十歳で涅槃に入られるまで、インド各地をまわられて、いのちの尊さを説かれ、平和な世を願われ、私達の生きる道を示されました。

## 『花祭り行事』

雪深い長岡市では四月八日の花祭りを、前より五月五日のこどもの日に開催しています。今年で八十八回を数えます。長岡市に続いている行事としては最も伝統のある行事だと思えます。

最近は大手通の自由広場を会場として、お練り、花祭り法要、稚児お育て法要などの行事を厳修しています。

お練りはお釈迦様をお乗せし、きれいに飾られ

た白象を中心に十二時半より、ホラ貝の僧侶を先頭に各宗派の僧侶三十名ほど、お稚児様と保護者六十名余。雅楽の楽人、壇信徒百名余、ガールズスカウト、ボーイスカウトなどの行列がプラカードや仏旗や吹き流しを持って大手通を一周します。



その後、大手通の中心に花御堂を飾って十三時より花祭り法要が、献灯・献華・献香の後、僧侶の読経・行堂・散華等盛大に厳修されます。十三時半より稚児お育て



## 『お稚児様募集』

て法要が行われます。参加したお稚児様の名前を奉読の後、稚児全員灑水加持が行われ、お釈迦様の誕生に准仏(甘茶を注ぐ)をして、心豊に健やかに育つことを念じて厳修されます。

## 『参加者募集』

十二時半からのお練りに参加する壇信徒を募集しています。当日お練りに参加する方の多くは立正佼成会の会員です。例年主催者である仏教会の壇信徒の参加が少なくなっています。ぜひ多くの壇信徒の皆様に参加していただきしたいと思います。

## 『募金のお願い』

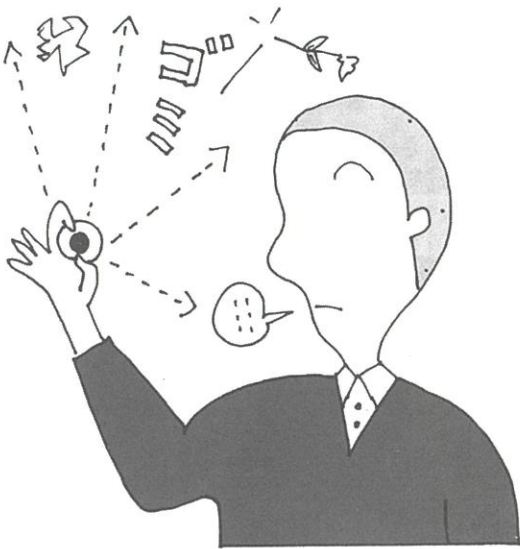
長岡市花祭りは皆様からの浄財で成り立っています。多くの皆様よりの喜捨をお願いします。各寺院に喜捨袋を用意していますので、どうぞ皆様からのご協力をお願いいたします。

# 読者からの

## 便り

拝啓 台風が去って急に秋らしくなりました。お変わりなくお過ごしのことと拝察いたします。

先日は寺報をお届けくださりありがとうございます。いつも楽しみにしております。早速拝読いたしました。今回は期せずして方丈様と若方丈様とともにお墓のゴミを取り上げておられました。それだけゴミの処理に頭を



悩ませておられるということでしょうか。あるいは、若様が再び方丈様と生活を共にされるようになって着眼点や感じ方が似てこられたのかもしれない。

墓地のゴミは当山でも悩みの種で、当山墓地にはゴミ捨て場はないにもかかわらず決まった場所にゴミが集まってしまいます。「捨てたくても捨てられない」雰囲気づくりを目指していますが、これまでのところ効果は上がっていません。いい方

法がありましたらぜひ御教示ください。

朝晩はだいぶ冷えるようになりまし。どうぞ皆様ご自愛専一にお過ごしください。

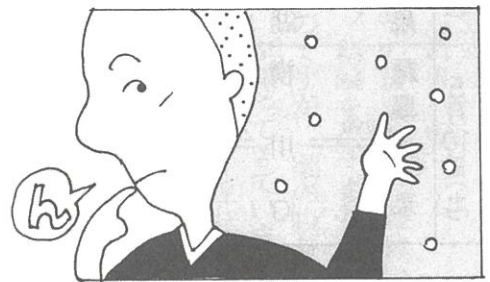
敬具  
平成二十五年九月二十日  
定光文英九拜

拝復 今冬の加茂はこれまでのところ雪が少なく助かっております。

先日は寺報をお届けくださりありがとうございます。また、御禮申し上げます。また、御禮申し上げます。また、御禮申し上げます。また、御禮申し上げます。

今号も楽しく拝読いたしました。特に安善寺の年末・年始はふだんよそのお寺の年末年始行事を知ることがほとんどないため興味深く勉強になりました。

壇信徒の皆さんもお寺がこれだけ忙しい年末年始を過ごしているとは御存知ないと思います。



若様の「遠い春を...」では久しぶりに長岡で迎える冬への飾らない感想がまっすぐに伝わって来ました。「横浜にいたときは四季を感じるのとは本山の行持で感じるものがほとんどでした」の一文、確かにその通りだなと思いました。

今は年頭行持も一段落した頃ではないかと存じます。お疲れの出ません御山内皆様くれぐれも御自愛ください。

敬具  
平成二十六年一月二十三日  
定光文英九拜

### 一緒に旬の料理を味わいましょう

『KAKA笑の会』も昨年、大勢の皆様からお出でいただき、実行委員に支えられて無事に十周年を終えることができました。

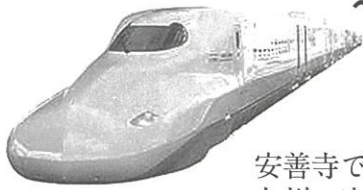
そんな中で今年には実行委員が力を出し合って、五十食限定で地物の「筍」が出る頃に『旬の料理を味わう会』を企画いたしました。

■日時 五月十四日(水) 午後六時半

■場所 安善寺本堂

※詳細はお問合せください。





# ～FDA・九州新幹線「さくら」・「指宿のたまたま箱」で行く～ 『九州・鹿児島 3日間の旅』

安善寺では、親睦旅行として FDA・九州新幹線「さくら」「指宿たまたま箱号」で行く九州・鹿児島 3日間の旅を計画しました。皆様お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。よろしくお願いいたします。

●期 日 平成 26年5月8日(木)～10日(土) **2泊3日**

●旅 費 112,000円

●人 数 30名

●申込金 10,000円 (旅費充当)

●締 切 平成 26年3月末日

※お問合せ・お申込は安善寺までお願いします TEL.0258-32-2811

〈ジパング利用〉

3割 109,000円

2割 110,000円



5月8日(木)	安善寺	新湊空港	FDA502	福岡空港	博多駅	鹿児島中央駅	指宿駅	指宿温泉	指宿温泉 フェニックスホテル	
	7:30	9:35	11:30	12:06	13:40	14:02	14:57	15:30		
5月9日(金)	指宿温泉	池田湖	知覧特攻 平和会館	鹿児島市内 磯庭園 尚古集成館	鹿児島空港	桜島	有村溶岩 展望所	霧島神宮	霧島温泉 霧島国際ホテル	
	8:30				桜島フェリー			17:30		
5月10日(土)	霧島温泉	横川IC	みやま柳川IC	福岡県柳川市 水郷	柳川川下り	みやま柳川IC	太宰府IC	福岡空港	新湊空港	安善寺
	9:00	九州道				九州道		FDA507 17:25	19:05	20:30

**お別れ**  
(平成廿六年一月～二月末まで)

林 源治様 一月一日寂  
長岡市水道町

星野貞作様 一月六日寂  
長岡市四郎丸

菅野日出男様 一月十四日寂  
長岡市柏町

石田スミ様 一月廿一日寂  
長岡市稽古町

河野初江様 一月廿八日寂  
長岡市

---

結城ふみ様 二月一日寂  
長岡市神田町

福田シズ様 二月四日寂  
長岡市東神田

丹後正志様 二月六日寂  
東京都

坂本 隆様 二月十一日寂  
長岡市緑町

ご冥福をお祈りします

心と身体に静かなひと時を…

## グループ坐禅会のお知らせ

坐禅に興味のある方、友達同士や職場の研修、子供の学校の集まりや部活動など、グループで坐禅を体験してみたい方対象の坐禅会を行います。

※最低人数 5名以上  
※日時はご相談に応じます  
その他、お気軽にご相談ください。

なお、安善寺では毎週火曜日の朝 6:00 からも定例坐禅会を行っています。

# 旬歌 愁灯

[三十話]

## 「ララララ」 秘境西ネパールの旅(その二)

加瀬由紀子

今までけっこう危なっかしい旅をしてきた。が、今回の「西ネパール・ララ湖サーキット」トレッキングのすさまじさは初めてだ。マオイストや山賊

が出没する、と言われガイドブックから削除されて数年の西ネパール。未だ辺境であり、貧しい山村のイメージがつきまとう。真冬の峠越えに現地

の住民もひるむ旅の顛末を記そう。  
西ネパールの玄関口、スタート地点ジウムラに行くには、カトマンズからの国内線でまずネパールガンジに飛ぶ。ここまでは二シートずつの席。飛行機が離陸するとすぐにキャビンアテンダントがカゴを持って現れる。客に配るのは、アメと綿

耳に綿を詰めて、アメをなめろという。

ネパールガンジからジウムラまでは有視界飛行なので、天候によって飛ぶかどうかが決まる。運よく乗れた小さな飛行機は、通路の両側にシートずつ、なんと操縦室の扉は空いたまま中が丸見えだ。頭上の操縦桿を握りながらチャイを飲んでいる二人の操縦士に不安が募る。

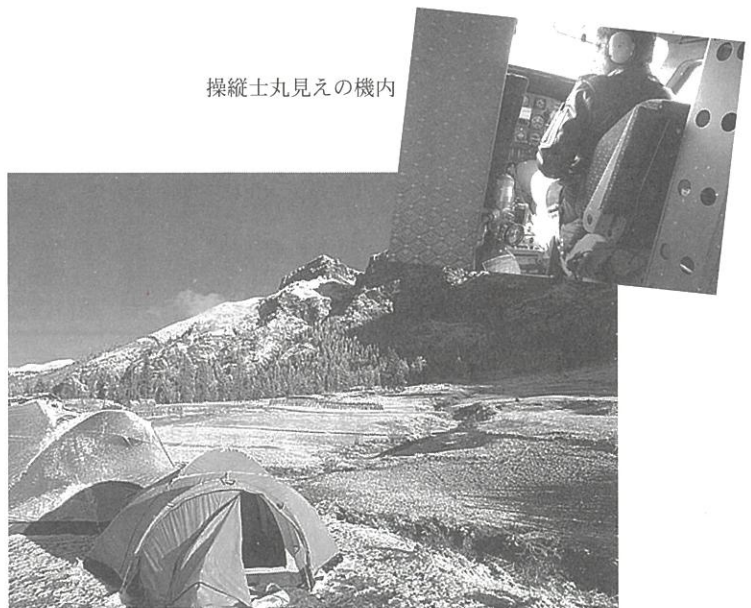
ジウムラに着くと滑走路の脇の鉄条網の一部が開いていてポリスがパスポートをチェック、さつさと行けの合図。  
因みに小さな空港の建物はトイレの戸が開けっ放し、悪臭の中でハエに止まられながら搭乗手続きをすることになる。

ジウムラには大きなバザール(商店街)もあるが、殆どが汚れた箱の商品で八年前のコーラもあった。小粒のミカン、バナナは美味だが、千ネパール

ピー(日本円で千円相当)を出すと叱られる。高額でおつりが無いというのだ。ある商店のラジオから流れていた曲はローリングストーンズの「テルミー」。「ラララ」には笑ってしまった。ララ湖の旅の暗示のようで。

ロッジの階段は凍っていて部屋には暖房もなく、薄い毛布にシユラフを持ち込んで寒さに震えながら朝になる。  
翌朝、窓の外は雪!しかも二十センチほども積もっている。朝食の席でサーダーが「この雪では

機内の丸見え操縦士



雪原のキャンプ

ロバが行けないと言ってます。峠を越えて行く人は今日は誰もいません」こうして三日間、ジウムラにステイ。結局、峠越えをあきらめて、遠回りで、車道の明確な村づたいに行くことになった。実はこれが大変な難行となる。キャラバン(山岳ガイド、サーダー、コック、ポーター五人、ロバ使い二人、ロ

バ五頭)は凍っているか、ぬかるんでいるかの雪道をスタートした。  
一日に十キロ、十二キロを五、六時間かけてほぼ一カ月、歩く。車道を短縮するために旧道の急な凍結した山道の上下行を繰り返す。車道だが、一メートル近いワダチがあり、朝凍結している時間にトラクターが一台通るのを

見かけたくらいで、車道の役を為していない。放牧の羊、牛、水牛、ヤギ、ロバ、馬。そしてヒト(男女とも額に紐を掛けてかなりの重さの籠を担ぐ。)が通る道なのだ。  
幕営地は学校(三月まで冬休み)や病院の広場、畑などで、きれいな水の出る場所を選んでもらう。トレントも設置してもらった。現地トイレだと、すきまから寒風が抜け、夜はうなり声をあげる光る二つの目に取り囲まれる。ジャッカルド。家々はチベット犬を飼ってにわとりや羊を守らせている。  
夜はあまりの寒さにたき火をした。すると初めて日本人を見た、と村の子どもたちが大勢集まってきた。窓のない家での長年のたき火に、目や、喉を痛めている人が多い。石を積み上げて木の窓枠にガラスではなく紙、家財道具もない家が殆どだ。

(続く)

ボブの独り言

# 迷惑をかけています…

## ボブの独り言

今冬の長岡は、過ぎしやすいくらいの積雪でした。庭のあちらこちらで雪間が見え始め、ツバキもすぐく沢山の蕾が膨らみ

が、こんな具合ですと、今年の春のお彼岸は久々にお墓にも行けそうです。私は最近、みんなに嫌われはじめ「ボブが入るか

がら「スミマセン…、ではすまない状況です」。ちゃんと私のトイレは二ヶ所に用意してあり、いつも綺麗にしてもらっ



咲くのを待っているかのようには庭のあちらこちらでいろいろな色の花が見られるでしょう。楽しみです。いつもお彼岸が近くなると『今年は墓地に行けますか?』という電話がよくかかってくるのです

ら」と言っておちこち戸を固く閉ざされています。と言うのも私は雄猫です。ので、あちこち私の臭いをつけたくて、本堂や家の中で粗相をしてしまうのです。「ここにもやって

ているのに単なる嫌がらせにしか見えないでしょうね…。最近はお堂のあちこちに防御のためにビニールが被せられるようになり、私が本堂や座敷の方へ行こうとすると「ダメ!」って叱られてしまいます。昨年から入れ歯になっ

てしまった住職、まだ慣れていないので部屋にいる時は外していることが多く、食事の時もうっかりとして外したまま出てくることが多いのです。家の中だけのことなら良いのですが、会議等で行った後「ただいま、忘れしました」「何?」「…」黙って部屋に行き「言っ

てきまーす」と言っておかけることも頻繁なんです。慣れるまで暫く続くのかもしれないね。真人君もいよいよ四月から幼稚園。食事を食べないで遊んでいたりと「良い子になって食べないと幼稚園行けないよ!」なんて言われています。

ニヤーン  
内容はやはり仏教に関することを中心にしたいが、

ニヤーン  
内容を決めるのが、編集委員会の仕事ですが、素人集団で初代安藤編集長のようにはいけません。それでも一生懸命な紙面作りを心がけている。

編集  
安藤編集長曰く、まずはお寺と檀家の距離感を近づけることが重要とこれに重きを置くことにした。

知識は教えれば判り理解もできるが、体験に基づくことは参加せねば理解出来ない。紙面は参加型にシフトして来た。行事の案内、イベントお知らせなど多彩に渡り掲載している。楽しく・ためになる紙面作りにと企画はしているが難しいことも事実だ。アサヒと言う会社のバックアップがなくして成り立たない季刊紙であったことも事実です。今の社長さんのご厚意もありこの季刊紙は継続出来ているのです。感謝とともに益々の応援と後援を宜しくお願いしたいと願っています。

### お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

- 原稿の例
- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
  - 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
  - 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。
  - 嬉しい・楽しい嬉しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

それには檀家の皆様のご協力が不可欠なのです。内容を決めるのは檀家の皆様の投稿やいろいろなご意見があつてこそです。いつでも編集部一同お待ち申しております。皆様で作る季刊紙編集者 小林国二拝

第六十六号、夏号は平成二十六年七月十七日(木)発刊予定です